

# 内視鏡的大腸粘膜切除術(大腸 EMR)に対する病棟看護師の理解と行動の変容

～内視鏡室看護師の教育的関わりを通して～

キーワード：内視鏡的大腸粘膜切除術（大腸 EMR） 勉強会 理解と行動の変容

外来 ○青野美根子 白尾八智重 前村香織 井上祥子

## 【研究目的】

内視鏡室看護師が病棟看護師に内視鏡的大腸粘膜切除術(以下大腸 EMR とする)に対する勉強会や機会教育を行う事による病棟看護師の理解や行動の変容を明らかにする。

## 【調査期間】

平成 28 年 12 月～平成 29 年 5 月 対象者：研究に同意を得た消化器内科病棟看護師 26 名

①内視鏡室看護師が前処置と大腸 EMR 治療の看護について勉強会実施 ②勉強会実施前後に前処置と大腸 EMR 治療の看護に関するアンケート実施 ③大腸 EMR 治療中の病棟看護師の看護行動の評価を実施 ④アンケート結果と看護行動の評価は単純集計を行い勉強会前後のデータを比較。本研究は所属施設の看護研究倫理審査委員会の承認を得た。

## 【結果】

勉強会前後で、前処置の理解度は下剤内服開始の注意事項の説明、前処置後の排便チェックタイミング、前処置不良時の対処の 3 項目で最大 20%上昇した。大腸 EMR 治療の理解度は大腸 EMR 治療の理解、大腸 EMR 治療患者の情報収集、大腸 EMR 治療に入室前の確認事項、大腸 EMR 治療のバイタルサイン測定タイミング、大腸 EMR 治療中の観察事項、大腸 EMR 治療後病棟で継続看護の 6 項目で最大 15%上昇した。大腸 EMR 治療中の看護行動の変化については、金属類除去の確認、治療中のバイタルサイン測定・観察、治療中の薬剤投与時観察の 3 項目で最大 33%上昇した。

## 【考察】

前処置については、病棟看護師が前処置の重要性を理解でき、排便状況のアセスメントに役立っていたと考える。病棟看護師が前処置観察の具体的行動ができる様にタイムスケジュールの説明を行った結果、実際に治療時の前処置状況は改善され治療開始時間も以前より早くなった事から行動の変容がみられたと考える。大腸 EMR 治療については勉強会で入室前、治療中、治療後の看護のポイントや治療中の偶発症・合併症を踏まえた説明を行った事で関連付いた観察の視点に繋がったのではないかと考える。また、勉強会で患者指導の説明を行った事で病棟看護師が患者に具体的な患者指導ができたと考える。

## 【結論】

前処置と大腸 EMR 治療に関して勉強会参加後は理解と看護行動の改善が見られた。内視鏡室看護師と病棟看護師が患者に対する看護の視点を共有し、内視鏡室と病棟間で継続した看護を患者に提供する為に勉強会や機会教育は効果があった。